

豪雨災害爪痕深く

梅雨前線停滞の影響で7月3日から鹿児島
島県北部と熊本県南部を豪雨が襲い、本町に
甚大な被害をもたらしました。

4日、気象庁は県で初となる、
大雨警戒レベル「5」に相当する
大雨特別警報を発表し、同日町は
災害対策本部を設置。あわせて町
消防団に出勤を呼び、高齢者宅の
見回りや避難の呼び掛けを行
いました。
降り続いた雨は土砂崩れ36カ所、
道路冠水4カ所、道路陥没4カ
所、河川氾濫7カ所などの公共土
木施設のほか、住宅の床下浸水な
ど町内各地で深い爪痕を残しま
した。



崩落からの復旧を急ぐ県道379号線(川内集落)



口之福浦川が氾濫し濁流に飲み込まれた水田



大規模な地すべりにより山肌が露わになった立石地区

獅子島では、島を囲む林道獅子
島線で土砂崩れが起こり、3日間交
通規制が行われたほか、立石地区で
は大規模な地すべりがありました。
11日に対策本部は閉鎖されまし
たが、現在でも各地で懸命な復旧
作業が続いています。
復興への道のりは、町と町民が
一体となり取り組んでいく必要が
あります。

川の濁流によりコンクリート擁壁が崩壊した旧獅子島保育園



地域のために、地域で動く

田尻公民館が復興・災害対策活動

7月19日、田尻自治公民館
では、復興と災害対策作業を
行いました。

これは、同自治公民館の
「田尻地区農地・地区を自然
を守る会」によるもので、会員
ら12人は炎天下の中、バック
ホーや高所作業車を運転し、
側溝に堆積した土砂の撤去
や支障木の伐採などに汗を
流しました。

災害と向き合い復興へ

私たちは「災害に強い地域」
を目指しており、災害を未然に
防ぐことに取り組んでいます。
毎年台風シーズン前に、消防
団との危険区域の確認や緊急
車両が生活道路を通れるため
のインフラ整備などを自主的
に行っています。

田尻地区は高齢者が多く、役
場や分遣所から離れた場所に
位置しているため、自分たちの
地域は自分たちで守る意識を
心掛けています。



田尻自治公民館長
上窪正志さん



農地に堆積した土砂を撤去する会員ら